

作業療法士から指導を受けた看護師・介護士が個別機能訓練を実施した事で改善をみた症例報告

浜田拓史、末長真之介、向原翔子、藤原翼、白石裕子、白石吉彦

【はじめに】当院作業療法士（以下、OT）は施設で毎月、職員への訓練指導や利用者の評価を実施している。指導を受けた職員がデイサービス利用時に訓練を実施し、車椅子から杖歩行にまで改善した症例を報告する。

【症例紹介】80歳代女性。平成23年6月に左大腿骨頸部骨折受傷。同年8月に自宅へ退院するがADL全般に介助が必要な状態で、デイサービス利用時は車椅子を使用していた。

【内容】OTが利用者の評価・訓練を実施し、職員への指導も行う。指導を受けている職員は写真やメモをとり、他の職員へ指導内容を伝え、OTも指導内容を紙面にまとめ提出する。その後、職員が計画書を作成しデイサービス利用時に機能訓練を実施する。OTは翌月に再評価し、訓練内容の変更などを行っていく。その結果、約1年後には杖歩行で自立する事ができた。

【考察】これは、他職種がリハビリに関心を持ち、重要性を理解し実践した結果であると思う。施設及び病院内でも他職種の協力を得る事は難しいが、利用者への調査でも76%が「訓練すると身体の調子が良い」と回答しており、機能訓練の需要は高く、患者の身体機能向上には他職種の協力が非常に重要と考える。